

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 辻 笑子

本論文はニューカレドニアのオロエ語の記述的研究である。オロエ語は消滅の危機に瀕している。この言語を話せるのは中高年の人たちだけであり、子供たちはフランス語を話す。筆者は現地に長期間滞在し、困難な状況の中で貴重な資料を収集した。本論文は主に音韻、形態、統語を対象として、この言語の包括的な記述を提示した力作である。

「第1章 本論文の概要」では目的、構成、データと研究方法、表記方法などを示し、通読のための十分な情報を提供する。「第2章 言語の概要」ではこの言語の話者を取り巻く社会的背景を紹介し、第3章以降の記述の厚みを加えている。「第3章 音韻論」では音素とその音声的実現、音節構造、音素配列、強勢、音調、音韻的なプロセス、形態音韻論、地域差と世代差、借用語の発音について、調査したほぼ全ての語例を対象に詳細な分析を示す。「第4章 品詞論」では名詞類、動詞、副詞、名詞修飾詞、動詞修飾詞、前置詞、接続詞、間投詞の品詞を設定し、その意味と用法を包括的に記述した後、「第5章 形態論」では名詞の形成と動詞の形成を豊富な用例を用いて記述する。「第6章 統語論 I 句」では名詞句の構造、動詞句の構造、副詞句の構造を、「第7章 統語論 II 節」では、名詞述語節と動詞述語節を扱い、更に、節を基本動詞節と派生動詞節に分類する。最後に、オロエ語の事実に沿って主語を規定する。「第8章 統語論 III 文」では平叙文、疑問文、命令文の用法を記述する。次に、複文を並列、等位接続、従位接続の三つに分類し、更に、従位接続を、名詞節、名詞修飾節、副詞節に分けて記述する。最後に、文の話題を記述する。附録の三つのテキストは、この言語の特徴をよく伝えているだけでなく、文化的にも非常に興味深い内容を含む。

本論文は、調査の極めて難しい、消滅の危機に瀕した言語の研究であるにもかかわらず、詳細であり、かつ優れた記述が、分類的接頭辞(第5章)、動詞句(第6章)、疑問文(第8章)、名詞修飾節(第8章)など、随所に見られる。更に、言語類型論の観点から見て興味深い現象を報告している。それは、待遇表現での三人称代名詞の用法(第2章)、主格と対格の表示(第7章)、使役構文での格表示(第7章)、形式主語(第7章)、前置詞残留(第8章)、話題標識(第8章)、所有者昇格(第8章)である。

惜しむらくは、音素配列(第3章)や動詞連続(第6章)の分析などにおいて、せっかくの豊富な資料を、分析に十分生かしているとはいいがたい。しかしながら、本論文がオロエ語の音韻、形態、統語について示した、非常に詳細で、かつバランスのとれた記述は高く評価すべきである。消滅の危機に瀕した言語の記録としての価値も高い。

以上の理由により、審査委員会は、本論文が博士(文学)の学位を授与するに十分値するものと判断する。